

第1回 学校運営協議会 会議録

開催日時	令和４年６月６日（月）１０時００分～１１時２０分					
会 場	本校視聴覚室					
出席者数	学校運営協議会委員 ７名			学校 ６名		
出席者氏名	会 長（北海道教育大学函館校 教授） 委員 A（小川食品取締役社長） 委員 B（今金町教育委員会 事務局長） 委員 C（studio claynote 主宰） 委員 D（今金町町議会議員） 委員 E（今金町農業協同組合 青年部顧問） 委員 F（寒昇町内会 会長）			・ 学校長 飯出 広行 ・ 教 頭 金子 亙喜 ・ 事務長 市川 聡 ・ 教務部長 山本 拓郎 ・ 総務部長 内田 義文 ・ 進路指導部長 田中 博昭 ・ 支援部長 山田 みゆき		
次第および校長が意見を求めた事項			学校運営協議会委員の意見			
[本日の予定] １ 学校長挨拶 ２ 辞令交付（後日） ３ 組織構成、事務局について【教頭】（別紙） ４ 自己紹介 ５ 学校運営協議会の目的と内容について【教頭】 ・ 学校運営協議会について（別紙） ・ 北海道今金高等養護学校 学校運営協議会設置要綱について（別紙） ６ 学校運営について【校長】 ・ 学校経営方針について（別紙） ７ 今後の学校運営協議会について、原案の説明 ８ 今後の学校運営協議会について意見交換、感想 ９ 会長及び副会長の選出 １０ 会長挨拶 １１ その他（連絡等） ・ 進路指導主事より（別紙） １２ 校長挨拶 ＊ （１） 学校長挨拶（学校長） ・ 運営協議会開催にあたっての挨拶 （２） 辞令交付（後日） （道教委に確認したが、辞令の準備ができていないため後日、届き次第送付） （３） 組織構成、事務局について 設置要綱の４条に沿って１５名を選出 （１） 学校の所在する地域住民 （２） 学校に在籍する生徒の保護者 （３） 学校の運営に資する活動を行う者 （４） 学校の運営に関係する行政機関の職員 （５） 学識経験者 （６） 前各号に掲げる者のほか、校長が適当であると認める者 ・ 本校の職員については、分科会で主として活動する。						

(4) 自己紹介（出席者7名、職員7名） （委員は全部で15名、任期は2年、昨年立ち上げたので今年度2年目となるが、昨年から引き続きの方が7名、今年度で切れることになり、今年なられた方とズレが生じるため、今年なられた方は1年任期となり、来年度改選となるが可能であれば来年度も続けていただきたい） (5) 学校運営協議会の目的と内容について【教頭】 【学校運営協議会について】 *昨年から継続の方もいますが、再確認のため学校運営協議会（コミュニティースクール）とは ・「学校や地域住民、保護者と目標を共有」が大きくなっていきます。 その関係で6分野から委員を選出。 また、学校と地域が適切に役割分担をすることで、子どもたちの健やかな成長と質の高い学校教育の実現が可能となるための組織です。 *なぜ、コミュニティースクールなのか ・学校と地域、保護者が目標やビジョンを共有して連携・協働していく所が一番大きい。 ・今まで「社会に開かれた教育課程」と出ていましたが、地域と共にとなる所を具現化する組織。 *学校にとってなぜ、コミュニティースクールなのか ・「子ども達の学び、体験の充実」とあるが、開校当時から取り組んでいる内容 ・持続可能な教育活動の実施 ・防災、防犯の充実 ・「地域人材、資源の活用」も開校当初から取り組んでいる内容で学校評議委員の時からお力添えいただいている。 *地域に開かれた学校から地域とともにある学校へ ・今までは校長に意見を言うことはできなかったがコミュニティースクールになり意見を述べるができるようになる。 *コミュニティースクールの機能（法に基づく制度） 1 校長が作成する学校運営の基本方針の承認すること（必須） 2 学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べるができる （これまでの学校評議委員と異なる立ち位置） 3 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、意見を述べるができること （道立学校については、校長が人事権を持っているが、そこに対しても意見を述べるができる） *学校評議委員との違い ・評議委員は、個人としての立場で、学校運営に関する意見を述べるもの、学校運営協議会は学校運営、教職員人事について意見を述べる一定の権限を有する合議制の機関である。 *既存の仕組みをベースに学校運営協議会へ ・今金高等養護学校は、以前からなっている組織	*資料 「学校運営協議会について」
---	-------------------------------

後援会を組織、学校評議委員で意見を述べる機会があった。このような形で地域住民や行政、教育機関、教職員、PTA、後援会、学校評議委員とともに意見を集約して学校組織を成り立たせていく。 ＊学校運営協議会の委員について ・委員は15名で組織 ・一定の権限と責任が与えられる ・特別職となり地方公務員となり辞令が発令される ・任期は2年（再任用有） （今年度は1年任期） ・報酬は日額1000円 ＊令和4年度の年間計画 ・6月、「第1回の学校運営協議会」 （基本方針の承認） 「今年度の教育活動について」 ・10月、「第2回学校運営協議会」 （学校経営状況の説明） （熟議：4分科会） ・2月、「第3回学校運営協議会」 （学校評価について） （次年度の経営方針、重点等について） 【学校運営協議会設置要綱について】 ＊第1条から第11条で構成 ・守秘義務も発生 ＊第7条協議会には、会長、副会長を選出 ＊協議会は学校主導で行うが、会長と進めていく後は、要項に則って進めていく。要項は4月1日から施行。昨年は学校評議委員会の延長としてやらせていただいたが、今年度から意味合いが変わっていきます。 (6) 学校運営について【校長】 ・学校運営を校長から説明し意見をいただいて了承していただきたい。 グランドデザインは視覚的にわかりやすくしたもの、学校経営シラバスに沿って説明させていただく。 ＊学校経営シラバス ・経営理念：（共学）地域と共に学び （共創）地域と共に創造し （共生）地域と共に生きる A：ワークキャリアアップ（職業人）とライフキャリアアップ（社会人）に基づいた地方創生と共生社会の担い手の育成 B：関係機関との連携に基づいた特別支援教育のセンター的機能及び地域の特別支援教育の充実並びに共生社会への貢献 ・本校は開校以来26年目を迎えますが、この地域の方々の御協力、御支援により、本校の理念である地域に根ざした学校教育の創造、共学、共創、共生の精神をまさに体現する地域と一体となった教育活動の推進に努めている。引き続き維持発展させるとともに新たな価値を創造していく。	質疑 ・特になし。 ＊資料 「学校経営計画」（学校経営シラバス） 「北海道今金高等養護学校グランドデザイン」
--	--

＊本年度の重点目標

【指導の重点目標】

- ・生徒１人ひとりの確かな学びを導く学習指導、生徒指導、生活指導の充実に努める。

【経営の重点】

- ・地域との「共学・共創・共生」を創造する地域学校協働活動（CS）を推進する。

＊設定の理由として、指導の重点目標の確かな学びとは、本校の目指す資質能力、校訓・教育目標の目指す生徒像と一致している。

資質能力は総じて言うと、自立的に働き生活する力を身に付けること。

更に、教育活動推進のポイントは卒業生の姿から学び教育活動に生かすこと、後期中等教育つまり高校生であることを踏まえ、教育内容や方法及び各行事等の充実に努めること。新学習指導要領や教育動向を踏まえた、教育課程の充実に努める。特に新設されました特別の教科道徳につきましましては、小中学校との系統性の観点から学びの連続性を重視した、指導計画の立案・実施計画を考えている。

これまで同様に、道南圏の各特別支援学校や地域の高等学校との交流を推進することも併せて取り組んでいきたい。

次に経営の重点です、このコミュニティースクール（CS）を本格実施とすることを重点化する。

本校の強みである地域連携を柱に各部会での協議を教育活動に生かしていきたいと考えています。

次に、指導の重点、経営の重点ですが、生徒１人ひとりに応じた学びの補償について、不登校生徒の対応は今後も想定されます。生徒の学習補償、ホームルーム担任、室担等支援の目的に不登校対応の要領を整備するなど組織化した取り組みを行っていきます。なお、ステップルームと称して居住地域で段階的に教育活動を行っていくなど試行段階ではありますが、効果を評価して正式実施の検討をしていく。

次に、働き方改革も経営の重点に位置付けています。校務経営の効率化、教職員の職務や役職等に基づく業務の推進、授業担當時数の軽減及びデスクワークの時間の確保など学校経営の工夫に務める。また、変形の労働時間制の活用各種休暇の取得などそれぞれが働き方の見直しに繋がるよう活用を進める。

その他、出願者の減少について、この２年間出願者の減少の要因や対策の検討が必要。コロナの影響もあるが、要因は様々で高等支援学校が函館に１校新設され、道南圏に４校となり選択肢が増えた。また、学科数も増えている。寄宿舎型が２校、通学型２校。生徒が生活環境の変化を希望しない傾向、学びも進路も地元志向であるなどこれまでの教育相談の記録から、本

人・保護者のニーズの傾向や生徒の状況等の変化を探ることも必要。また、本校の学びの良さをより発信する。卒業生の様子を紹介するリーフレットや学校紹介ビデオを活用する。

また、学校説明会では今養クイズを出し、今養に興味をもってもらう取り組み、寄宿舍離れを防ぐ意味でも寄宿舍生活を含めたライフスタイル（リーフレット）を作成。

また、道南圏域の市町村への製品、作品出展を増やすことや、小中学校の段階から校内の研修会の案内を配布するなど早い段階から本校を周知していく事などを進めていく。

なお、この点についてはコミュニティースクールのテーマとして熟議していただきたい。

次に危機管理について、経営の重点にもある新型コロナウイルス感染症の感染状況は油断を許しません。引き続き対策の徹底を図っていく併せて、災害の備えをしっかりとしていく。災害はいつどこで起きるかわかりません。想定外のことも起きますので、日頃からその意識を教職員と自覚し最善の備えをしていきたい。

次に、大規模改修について、令和5年度までの改修計画が近く提示される予定。これまでプールなど町民に開放してきました施設の貸与が難しくなった。計画が見えてきましたら周知します。

次に服務規律について、教育公務員の不祥事が後を絶ちません。職員はもちろん家族、同僚、生徒、卒業生の信頼を裏切る行為。本校の職員については、教育公務員としての自覚をもち絶対に不祥事を起こさないという強い意志をお願いしている。

本校の強みである、地域に根ざした教育は全道においても先進的な取り組みとして認知されており、引き続き維持発展されていくと共に、新たな価値を創造していきたい。教職員の行動指針がありますが、教育・協力して育てる（チーム今養）教育・共に学び、共に育つ、共創、地域労働先との協働に務めていきたい。

(7) 今後の学校運営協議会について（資料P4）
本校のコミュニティースクール～考え方～

CSの理念である、地域と学校が「育てたい子ども像・目指すべき教育のビジョンの共有」することが、すでに今金町では築かれている。

開校当初より、推進してきた「地域連携」そのものが、CSの考えに基づく具体的な取り組み（地域学校共同活動）である。一般的な学校運営協議会の進行では今金ではできているが、今金としてどうしていくのか、という事を前進藤校長と検討して原案として立てさせていだいた。

これまでの取り組みを継続しつつ充実を図

質疑
・特になし。

る推進が望まれる、具体的な取り組みの観点
は、次の事項である。

1. 学校経営に関する事
2. 教育活動に関する事
3. 特別支援教育推進に関する事
4. 地域就労・生活に関する事

この4つに焦点を当てて、分科会で話し合っ
て意見を集約していく。

ただし、3回という限られた回数の中では難
しいことが予想されるが、日程は設定させ
てもらいますが、集まった中で推進する。

4点の中で推進していくことを本校では考
えています。

P8を参照、

具体的にはこのような形で、各部会は仮
称ですが「学校経営部会」は管理職主導
で話を進めていきます。「教育活動連
携部会」は教務と総務で進めていきま
す。(山本と内田)「特別支援教育地
域推進部会」はコーディネーター(山
田)が推進していきます。「地域就
労・生活連携部会」は進路(田中)が
推進していきます。具体的には15
名いますので、分担していこうと考
えていましたが、立ち位置によって、
重複される方がいますので負担がな
いように進めさせていただきたい。後
ほど原案を提示させていただきます。
可能であればそれぞれ一つの部会に入
っていただいて、ご意見があれば推進
部会であがったものにご意見をいた
だく形をとりたい。

今後の進め方について

今日は、協議のテーマの検討と言
うことで検討していただけたらと思
います。

2回目につきましては、10月4日(火)
午後を予定しています。集まってい
ただいて分科会を実施する。前段階
で情報が必要であれば学校から提
示させていただきます。遠方の方も
いますので、電話やメールで行って
いきたい。

3回目につきましては、2月8日(水)
に学校評価、次年度の経営方針、
分科会であがってきたご意見を
検討し次年度につなげていくこと
を予定しています。

(8) 今後の学校運営協議会について意見交換、感想 (委員 A)

生徒数が以前は人気があって落ちる
生徒がいる時代もあったが、今は少
なくなっていて定員に満たない。最
大の要因は学校でどのように捉えて
いるのか。

また、ボーダーラインの生徒が以前
増えている事を聞いたが、生徒の
絶対数も減っているのか。

(校長)

道南圏に1校高等支援学校が新設
したが寄宿舎のない通学型の学校
だが、選択肢が増えたことがあ
げられる。保護者・生徒が生活
スタイルを変えたくない、通え
るならその学校に行きたい。寄
宿舎を選択しない。コロナの影
響もあるが、学校の良さ、特色
をもっと発信していきたい。

ボーダーラインの生徒の一定数
はいると思うが、高等学校も
インクルーシブ教育ということで
多少間口を広げている。必要
な生徒に必要な教育をという
ことが基本。

我々の良さを教育相談を通
じてきちんと伝

(会長)

中学校の特別支援学級に在籍する生徒の数と高等支援学校の入学定員はほぼ一緒くらいなのか。

高等学校への進学をしている生徒もいるのか。

(感想)

広報というか、発信が大事。進学、志願者減だけの発信ではなく、学校評議委員の時からお伝えしていたが、今金高等養護学校は模擬株式会社の取り組みや町との就労支援事業など、他の地域にない特色があるが意外と知られていない。どんどん発信されると色々な媒体で取り上げられ良いと思う。その中に、志願者減の情報もあれば良い。

(委員 E)

コロナの影響で見る機会がなくなり一概に言うことはできないが、農業のことで分からないことがあったら、出前授業もしますし農作物で分からないこと助けてほしい事があったら支援していきたい。

これからも地域に根付いた教育をやってほしい。

(委員 C)

私は陶芸に関わる事が多いので、ここで作った製品をどのように一般の方に知っていただくか、学校のことを広く知っていただくためには、「器は使ってなんぼ」という所があるので、例えば料理研究家とか料理に関わる人に、学校の製品を使っていただき、その方から発信してもらうなど外部の方の発信力をお借りする。現代ならではの発信の仕方。

また、製品をいかに手にとってもらう機会を増やすか、学校の宣伝にもなる。(インスタなど)

(委員 D)

卒業生を雇用している協議会有り、年々参加してくださる先生が増えた。学校だけではなく地域で働いている子ども達の課題や早く辞めてしまう子供も多いのでその問題を知ってほしいという思いがあったが、近年は先生方に雇用者側の話を聞いてもらっているので、大変嬉しく思います。

えていきたい。

(校長)

そういう設定で経緯している。

(教頭)

進学しています。

(教頭)

昨年度、今年度と定員を割っている大きな要因もあるので、以前は落とすばかりの学校だったが、落としたくないと思いながらいた。しかし、生徒が来ないといろいろな面で大変だと痛感している。魅力ある学校の発信。どう保護者に伝えられるのか。以前函館では、本校のことを知らないというお話がありました。

やはり、広まってないんだと感じる。函館でも広がっていないのなら、それなりの発信をする必要がある。寄宿舎の魅力や学科で取り組んでいる所の魅力を伝える。通える地域ではないので寄宿舎利用となるが、手を加えていきたい。

学校説明会でも「今養クイズ」を行い今金町や本校のことを知ってもらえるように工夫した。また、アンテナショップではないが、美利河地区にある旧石器文化館で町教委から受注を受けて製品を納品しているが、それ以外の製品も置いて発信していきたい。

他に、八雲町と長万部町の新幹線の駅にも製品を置いてもらえないか、各町の関係者と詰めていきたいと考えている。生徒が来たい、学びたいと思える学校になっていくよう努力していく。

(委員 F)

開校当時は、この辺は原っぱで学校ができてから 360 度景色が変わった。

今金の良さ、食材では No.1 の今金だんしゃくが有名、食の PR からする方法もある。

また、ピリカかいぎゅう 120 万年から始まって旧石器、砂金、マンガンの歴史がある。ピリカのマンガンを釉薬に使っていることも聞きました。はがきや便せんなども旧石器文化館で販売している。食の環境とか自然環境といった面からも今金の良さを PR してらどうか。

(委員 A)

開校当時、経済界も盛り上がったし話題性があった。現在は課題も見えてきた。生徒数の減少も知った。時代と共に人口減少だったり、地域も変わってきた。学校運営でも支障を来すところも出てくる。

我々商工会としても、i スマイルで卒業生の雇用を目指している。昨今は卒業生も地元に残っていただけない状況にある。学校としても、地元で就職と言うことを積極的にされてると思うが、もっとコミュニケーションがあると良い。

(委員 B)

開校当時から様々な取り組み、地域の行事に生徒も先生方も参加していただき基盤はできている。

町の校長、教頭会にも参加していただき、コロナ対策、衛生管理など情報共有し取り組んでいただいている。

(会長)

函館高等支援学校や北斗高等支援学校との違いは、まるで町立の学校で連携がとれている学校。それが強み、もう一つの強みが寄宿舍、私は昭和の時代の寄宿舍がある高等養護学校で教育を行ってきた。寄宿舍の役割、知的障害のお子さん達にとっては重要な役割、教育活動をもっている。その 2 つの強みを町の物産と絡めながら何かアイディアがあると思う。

(教頭)

今、みなさんからご意見いただいて、すぐ取り入れられるものありますので、学科の方と共有していきながら、できるところから着手していき次年度の生徒募集につなげる部分と、学校としてより良い今金町にとってどういう学校あってもらいたいのか、実現するために絡んで行けたらと思う。

学校運営協議会の設置理由、目的はすでに達成している学校ですが、何を今後しなければいけないのか、一歩踏み込んだ形で進めていく。

余談になりますが、特別支援教育とはどういうものなのか、小・中学校の先生方は知らない部分が多い。2 年前にも乙部町に呼ばれお話をしてきたことがある。去年は厚沢部町で、今年は違う町から声がかかっている。檜山に 1 校の学校なのでセンター的機能を果たしていきたい。

また、中学校の先生は高校入試の内容は理解しているが、特別支援学校の試験はわからない

(9) 会長及び副会長の選出 事務局案として、北村先生にお願いしたい。 ただし、すでに函館高等支援学校の学校運営協議会の会長に就いているので兼務となる。 事前に北海道教育委員会には確認し兼務することは可能と回答を受けています。 北村先生、会長をお願いします。 副会長につきましては、学校運営協議会のときから、森課長さん、戸室さん、小林さんとも相談してきたが、地域の方を選んでしまうと意見は言いやすいが、会長・副会長となると難しいと思うので、学校としての立ち位置の方でないのかという事がありましたので、新堂 PTA 会長さんをお願いしました。 (10) 会長挨拶 北海道教育大学の北村です。 私でよろしければよろしくお願いします。 学校評議会の機能と学校運営協議会の機能が違ってより強い機能をもっていると教頭から説明がありました。それを十分に生かしながら、今金高等養護学校が抱える学校課題の解決に資するような取り組みを委員会でできればと思う。もう一つは、今金高等養護学校が町と連携して協働し開かれた学校になっていくなど充実させる取り組みができればと思う。校長の冒頭の挨拶で「新しい価値を生み出す」という言葉が耳に残っています。新しい価値を生み出すような協議会になればと思いますので、委員の皆様よろしくお願いします。 (11) その他（連絡等） ＊別紙資料 進路指導部より、昨年度の進路状況について 昨年度の進路状況についてご説明いたします。 日頃より、委員の皆様には進路指導に当たりまして様々なサポートをいただきまして、ありがとうございます。近年、新型コロナの影響で実習が思った通りに進まない等の問題がありますが、町内を中心に生徒の進路指導の大事な場であるということで、様々なご配慮をいただき助かっております。今後も御協力いただき生徒の実習、就労を充実させていきたい。	事が多いので、そのあたりをオープンにしていきながら色々な町と接点を持ち、今金を発信していきたい。函館高等支援学校、北斗高等支援、伊達高等養護と連携を図りながら、生徒募集に繋がる働きを考えています。また、センター的機能であれば、パートナーティチャー派遣事業では、コーディネーターの山田が檜山中心に小中学校、こども園に出向いていますが、その辺でも発信していきたいと思います。 困り感があるお子さんだけではなく、その他にも今金高等養護学校でできる事を伝えていく。その辺の事を学校職員にも周知していきたい。 (会長) わかりました。 (全委員) 了承
---	---

全体的な就労の状況ですが、業務内容を見ていただきますと、第1次から第3次、第6次と呼ばれるサービス業まで幅広く生徒は就労しています。就労状況ですが、一般就労が6名（約3割）、福祉的就労が16名（約7割）、未定1名となっています。この内、今金出身者は一般就労をしております。就労の範囲ですが、渡島、檜山、後志、空知と広範囲となっています。

オンラインでの就労訓練とありますが、生徒の実態が多様化している中で、集団になじめない生徒への新しい働き方として、在宅テレワークという人と関わらなくても仕事ができる場を提供いただき進めている。

本校の課題は、卒業後の生活の場の補償が難しい。働く場と生活の場と組み合わせることに苦労している。函館圏の女子のグループホームが足りない。地方出身が函館で就労希望だが住む場所を確保できない。

今金町に関しましては、光の里さんのグループホームを配慮していただいている。町や商工会などいろんな団体さんの御協力で新しい生活がスタートできると残る生徒が増えてくる。また、「生徒自身の自己理解」何が得意で何が不得意なのか説明できない、理解していないところがある。そもそも障がい受容がうまく進んでいないため、助けてほしいが上手く発信できなく理解を得られないという課題もありますので、卒業までの間に授業を含めた指導をしていきたい。

(その他)

会議日の日程について

- ・月曜日の午前は仕事の関係で難しい。
- ・火曜日は授業の関係で難しい。

(12) 校長挨拶

第1回目と言うことで、説明が多かった。わかりやすく簡潔にと考えていた。意見交換では広報発信の大事さ、具体的な事例が出されました。教員だと思いつかない視点がありますので、集まってお話しいただくことが大切。次回は熟議することになります。学校経営は恣意的なものでなく、CSがあることで地域と連携した学校運営が持続可能、永続的にこの今金高等養護学校が町と共に教育展開できるようにするためには、この会議が貴重だと思っています。

社会に開かれた教育活動、地域と共にある学校づくりのために引き続きよろしくお願いします。

(教頭)

同封の資料の中に学校要覧もありますので、後で御確認ください。

(教頭)

- ・再度日程調整しご案内いたします。

上記のとおり会議を開催した。

令和4年6月6日

北海道今金高等養護学校長

飯 出 広

